

日本学校教育学会公開研究会のご案内

2030年の学校教育を見すえた新しい授業と学び ～子ども・教師・地域の学びをつなぐ～

日時：2018年2月18日・日曜日・13時30分～16時30分（受付13時～）

場所：日本大学理工学部駿河台キャンパス お茶の水校舎 C502 教室

〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台1-8-14

交通 JR「御茶ノ水」・地下鉄「新御茶ノ水」「御茶ノ水」各駅 下車（地図参照）

企画のねらいとプログラム：

2017年に幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の新学習指導要領が告示され、学校教育において「主体的で対話的な深い学び」を推進することが提示されました。子どもが知識技能を獲得するだけではなく、予測不可能な現実の課題にチャレンジするための自主的で自律的な学びが、学校現場で取り組むべき重要課題となっています。このような学びを実現するため、教師と学校には不断の授業改善が求められています。また、2012年の中教審の答申以降、「学び続ける教師像」が提唱され、教育委員会や大学や地域等と協働しながら、教師が学校での実践を通して学び育ちつづけることが期待されています。

今後、人工知能（AI）等が普及し、少子高齢化が進行するにともない、社会や仕事の在り方や働き方だけでなく、学校教育の制度や組織、内容や方法も大きく変容することが予測されます。もちろん、質の高い授業を求めて教師が学びつづけることは普遍的な課題ですが、他方で教職員の長時間労働や多忙化により、教師が十分に学ぶ時間が確保されているとはいえず、新しい課題に対応するために学校現場は困難に直面してもいます。

そこで、本公開研究会では、子どもと教師と地域の学びをつなぐことによって、教育の質を高める授業や試みについて報告をお願いし、2030年の学校教育を見すえた新しい学びについての意見交換を行いたいと思います（その際、新学習指導要領に対応するための方策の提案にとどまらず、批判的創造的な検討と議論を行えればと願っています）。

公開研究会ですので、どなたでも（学会員でなくても）参加できます。

ふるって、ご参加のほど、どうぞ、よろしくお願いいたします。

■報告（テーマは仮題）

○これからの新しい学び 澤田稔氏（上智大学）

○総合的な学習からつながる学び 宮下与兵衛氏（首都大学東京）

○中・高連携による学び 佐々木善治氏（静岡県富士市立吉原第三中学校長）

■指定討論 堀井啓幸氏（常葉大学）

問い合わせ先・黒田友紀（kuroda_y@penta.ge.cst.nihon-u.ac.jp）

【地図】 日本大学理工学部 お茶の水校舎 C502教室

JRお茶の水・東京メトロ千代田線新御茶ノ水駅を出て、明治大学方面に進み、日本大学病院を超えたらすぐ左手に入ってください。お茶の水校舎の入り口があります（旧日本大学法学大学院・旧カザルスホール）。駅より徒歩約5分です。エレベーターで5階へお越しください。

駿河台校舎キャンパスマップ : <https://www.cst.nihon-u.ac.jp/campus/surugadai/>

